

KYOWA KIRIN

株 主 メ モ

事業年度	1月1日から12月31日まで (平成21年6月25日開催の第86回定時株主総会において、事業年度を4月1日から3月31日までから上記に変更しております。ただし、第87期は、平成21年4月1日から12月31日までの9か月決算となります。)
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日 (ただし、第87期は9月30日を中間配当基準日とします。)
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店及び全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://ir.kyowa-kirin.co.jp/
証券コード	4151

お知らせ

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続きについては、右記中央三井信託銀行株式会社のフリーダイヤル又はホームページで24時間受け付けております。

フリーダイヤル 0120-87-2031 (手続用紙ご請求専用:自動音声案内)

ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。



株主のみなさまへ

KYOWA KIRIN

第87期 中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日

協和発酵キリン株式会社



取締役社長
松田 譲

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は当社の経営に一方ならぬご支援をいただきまして、誠に有り難く心から御礼申し上げます。

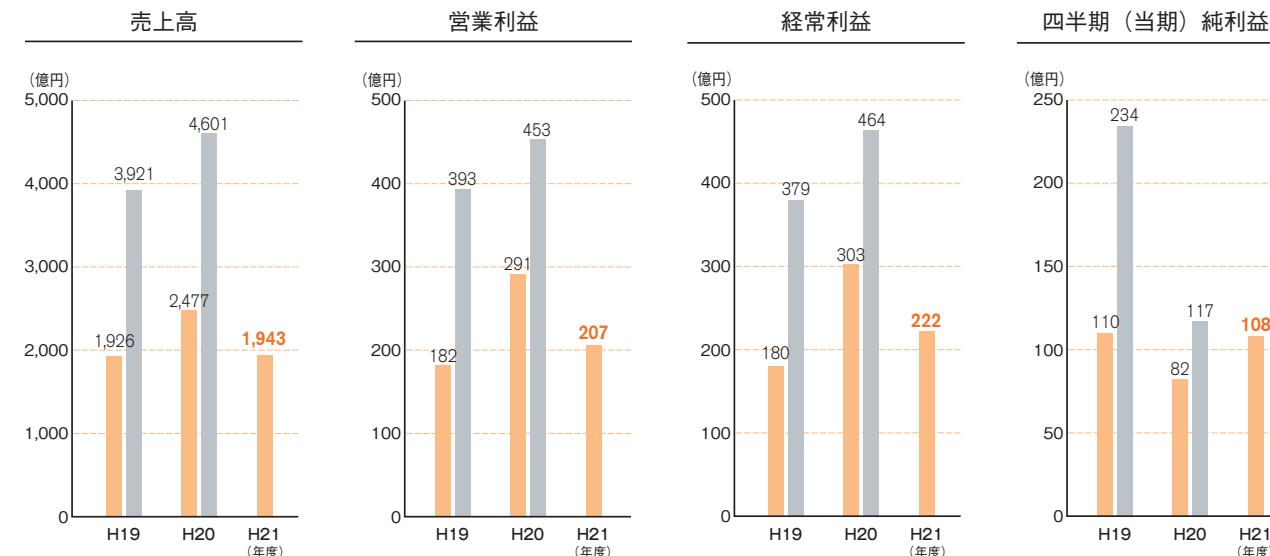
当社の第87期上半期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）が終了いたしましたので、ここに中間報告書をお届けし、概況についてご報告いたします。

当社グループを取り巻く経済環境は、景気の一部に持ち直しの兆しが見られたものの、実態経済は依然として厳しい状況にあり、また、雇用情勢の深刻化や所得環境の悪化が進むなど、景気の先行きが不透明な状況で推移しました。

医薬事業では、国内におけるジェネリック医薬品の使用促進などの医療費抑制策の進展、欧米製薬企業や専業大手の攻勢激化、国際的な新薬開発競争の激化など、引き続き厳しい事業環境となっております。このような環境下において、当社グループは、国内営業力の更なる強化に努め、貧血治療剤「ネスプ」及び「エスポー」、抗アレルギー剤「アレロック」等の主力製品の販売拡大を図ってまいりました。一方、抗体医薬開発品の順調な臨床開発ステージアップや技術・製品ライセンス契約の締結など、国内外における研究開発や提携の進展に努めてまいりました。

バイオケミカル事業では、急激な円高の影響を受けましたが、高付加価値分野である輸液・医療用を中心としたアミノ酸市場での拡販を図り、また、ヘルスケアでは独自素材の市場開拓を進めると共に、健康食品リメイクシリーズの通信販売拡大に向けた取組を実施してまいりました。

化学品事業では、世界的な景気後退に伴う需要減や製品市況の悪化により厳しい状況が続きました。このような状況の中、あらゆる面からコストの低減や業務の効率化を実施すると共に、環境対応型機能性製品の販売に注力してまいりましたが、事業収益の悪化を補うには至りませんでした。



■ 第2四半期 ■ 通期 (注) この中間報告書に記載の金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。

この結果、当上半期の連結ベースの売上高は、1,943億円（前年同期比21.5%減）となり、営業利益は207億円（同28.7%減）、経常利益は222億円（同26.9%減）となりました。また、純利益は、前年同期に比べ25億円増益の108億円（同30.5%増）となりました。

当連結会計年度は平成20年度を初年度とした中期経営計画の2年目に当たりますが、当期から決算期を12月に変更することといたしました。

また、食品事業が連結対象から外れたことや昨年秋季以降事業環境が大きく変化していることも考え合わせて、平成22年を初年度とした3か年の中期経営計画を現在策定中です。

当社グループは、「ライフサイエンスとテクノロジー

の進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します」という経営理念のもと、高度な技術とユニークな視点で独自の研究を進め、さまざまな産業分野に高品質の製品を開発・提供し、医薬を核にした日本発の世界トップクラスの研究開発型ライフサイエンス企業を目指しております。また、株主のみなさまをはじめとするすべてのステークホルダーの方々のご期待にお応えできるよう、企業価値の持続的な向上を図ってまいりたいと考えております。

今後とも、株主のみなさまのご期待に沿えるよう全力を尽くす所存ですので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年11月

Pharmaceuticals

医薬事業

国内の医療用医薬品は、主力品を中心に順調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

製品別には、貧血治療剤「ネスプ」・「エスポー」、抗アレルギー剤「アレロック」、抗アレルギー点眼剤「パタノール」などが売上高を伸ばしました。また、昨年1月に販売を開始した二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「レグパラ」が市場に浸透し、売上げの伸長に寄与しました。

医薬品の技術収入及び輸出においては、抗CCR4抗体KW-0761に関するライセンス契約一時金があった前年同期に比べ大幅な減収となりました。



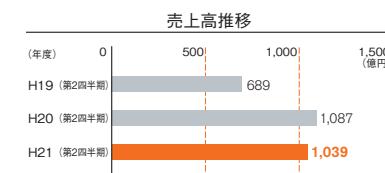
臨床検査試薬製造販売の子会社協和メデックス株式会社は、生化学系試薬、免疫系試薬ともに伸長し、売上高が前年同期を上回りました。

この結果、医薬事業の売上高は、1,039億円（前年同期比4.4%減）となり、営業利益は213億円（同8.4%増）となりました。

新薬の国内開発では、貧血治療剤「ネスプ」の適応追加を申請中のほか、がん性疼痛治療剤KW-2246の第Ⅲ相臨床試験の結果を得て、新薬承認申請の準備を進め、8月に抗パーキンソン剤KW-6002の第Ⅲ相臨床試験を開始しておりま

す。また、白血球減少症治療剤KRN125及び抗パーキンソン剤KW-6500の第Ⅱ相臨床試験を進め、6月にKW-0761（抗体医薬）の血液がんに対する適応の第Ⅱ相臨床試験を開始しております。血液凝固阻害剤KW-3357及び抗悪性腫瘍剤ARQ197の第Ⅰ相臨床試験を進め、9月に抗悪性腫瘍剤KRN951の第Ⅰ相臨床試験を開始しております。

海外では、米国において抗悪性腫瘍剤KW-2449及び抗悪性腫瘍剤KRN330（抗体医薬）の第Ⅰ／Ⅱa相臨床試験、低リン血症性くる病治療剤KRN23（抗体医薬）、抗悪性腫瘍剤BIW-8962（抗体医薬）の第Ⅰ相臨床試験を進め、6月に抗悪性腫瘍剤KW-2450及び7月にKW-0761（抗体医薬）の血液がんに対する適応の第Ⅰ相臨床試験を開始しております。欧州においては、抗悪性腫瘍剤KW-2478の第Ⅰ相臨床試験を進め、8月に血液凝固阻害剤KW-3357の第Ⅰ相臨床試験を開始しております。中国においては、抗アレルギー剤「アレロック」及び、高リン血症治療剤「フォスブロック」の承認取得を申請中であり、貧血治療剤「ネスプ」の第Ⅱ相臨床試験を進めております。



Bio-Chemicals

バイオケミカル事業

アミノ酸・核酸関連物質を中心とする医薬・工業用原料は、高付加価値分野である輸液・医療用を中心に拡販に努めてまいりましたが、円高の影響を大きく受け、売上高は前年同期を大きく下回りました。

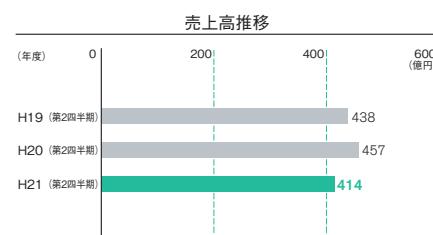
ヘルスケア製品では、通信販売リメイクシリーズが堅調に推移しましたが、世界同時不況の影響を受け、米国を中心に健康食品用のアミノ酸・核酸関連物質などの売上高は前年同期に比べ減少しました。

農畜水産向け製品では、海外市場での農薬の競争激化や、畜水産市場の低迷もあり、前年同期の売上高を下回りました。

アルコールは、酒類原料用アルコールが減少傾向で推移しましたが、インフルエンザの流行により工業用アルコールの需要が急増し、売上高は前年同期を上回りました。

また、第一ファインケミカル株式会社は、ビタミン市況の低迷などにより売上高が減少しました。

この結果、バイオケミカル事業の売上高は、414億円（前年同期比9.4%減）となり、営業利益は16億円（同68.1%減）となりました。



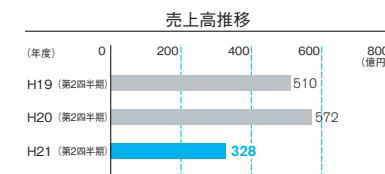
Chemicals

化学品事業

国内では、景気の一部に持ち直しの兆しが見られましたが、本格的な景気回復には程遠く、販売数量、売上高共に前年同期を下回りました。とりわけ、原料価格急落に伴う販売価格の下落により、売上高は大きく落ち込みました。輸出については、中国需要の伸張などにより、販売数量は前年同期を上回りましたが、国際市況の大幅な下落により、売上高は前年同期を下回りました。

第2四半期には、前年同期並みの販売数量まで回復した機能性製品をはじめ、すべての分野で第1四半期の販売数量、売上高を上回るなど多少薄日は射しはじめましたが、全般を通して、当上半期は厳しい事業環境が続きました。

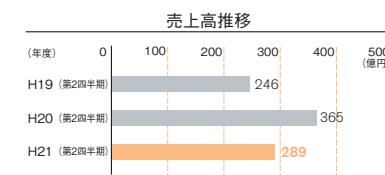
この結果、化学品事業の売上高は、328億円（前年同期比42.6%減）となり、営業損失は24億円（前年同期は29億円の営業利益）となりました。



Others

その他事業

その他事業の売上高は、289億円（前年同期比20.9%減）となり、営業利益は1億円（同75.3%減）となりました。



KW-0761 (抗CCR4抗体) 成人T細胞白血病リンパ腫に対する 国内第Ⅱ相臨床試験開始

平成21年6月自社開発のKW-0761 (抗CCR4抗体) の成人T細胞白血病リンパ腫 (ATL) に対する国内第Ⅱ相臨床試験を開始しました。

KW-0761は、当社独自の強活性抗体作製技術「POTELLIGENT® (ポテリジェント)」を用いて作製したヒト化モノクローナル抗体で、CCR4陽性の血液がん細胞及び喘息や炎症性疾患への関与

が示唆されているCCR4陽性T細胞を、減少させることが認められています。これまでの、成人T細胞白血病リンパ腫 (ATL) 及び末梢性T細胞リンパ腫 (PTCL) を対象とした国内第Ⅰ相臨床試験において、KW-0761の安全性が示され、有効性についても認められています。

自己免疫疾患に適応される完全ヒトモノクローナル抗体 「抗LIGHT抗体」に関するライセンス契約締結

平成21年5月にサノフィ・アベンティス社 (本社：フランス・パリ) と完全ヒト抗LIGHT抗体の共同開発・販売などのライセンス契約を締結し、サノフィ・アベンティス社に本抗体の日本・アジア地域を除く全世界の権利を導出しました。

抗LIGHT抗体は、現在前臨床段階にあります。本抗体は潰瘍性大腸炎及びクローン病におけるファースト・イン・クラスの薬剤になることが期待されます。また関節性リウマチ症への開発も期待されています。

持続型赤血球造血刺激因子製剤 「ネスプ®静注用プラシリンジ」新発売

持続型赤血球造血刺激因子製剤「ネスプ®静注用シリンジ」をガラス製シリンジからプラスチック製シリンジに変更することにより投与時の機能性を向上させ、さらにより識別性の高いデザインに一新した「ネスプ®静注用プラシリンジ」を平成21年5月に発売しました。

「ネスプ®静注用シリンジ」をプラスチック製に

変更したのは、破棄時の簡便性や環境面などを検討し、プラスチック製の方がガラス製より割れにくいなどの特性があるためでもあります。

多忙な医療現場において、識別性の改善は、これまで以上に投薬作業時間の減少、誤投与防止など業務改善に貢献できると考えています。



「ネスプ®静注用プラシリンジ」

「私たちの志」スペシャルサイト」公開

1,000人で作り上げた1,000字の“志”で会社の思いを発信



サイトURL

<http://www.kyowa-kirin.co.jp/special/kokorozashi/index.html>

平成21年9月当社ホームページ内に“私たちの志”と、完成までの軌跡を紹介した『“私たちの志”スペシャルサイト』をオープンしました。“私たちの志”は、製薬会社としての思いを、社員自らが数か月を費やしてまとめたものです。本スペシャルサイトを通じて、協和発酵キリンの会社としての姿勢と思いを発信していきたいと考えています。

『“私たちの志”スペシャルサイト』では、全社員のおよそ4分の1である1,022名（延べ）が約9か月にわたって参加し、策定した“私たちの志”とその完成までの軌跡を紹介しています。“私たちの志”は、平成20年10月の協和発酵工業株式会社とキリンファーマ株式会社との合併を機に、両社の社長の働きかけにより実施された新経営理念策定プロジェクトより生まれました。最終的には、著名コピーライターの岩崎俊一氏が社員の思いを引き継ぎ、文章にまとめています。

“私たちの志”策定は、社員にとって自らの“志”を改めて見つめ直すことと、社員間の団結を強める機会となりました。

“私たちの志”は9～10ページに掲載しております

「私たちの志」の位置づけ

キリングループと協和発酵キリングループは、ともに「グループの哲学・価値観」とそれに基づいた「個人の価値観・行動」を定めています。

「私たちの志」は、企業としての哲学・価値観を宣言するとともに、個人の価値観・行動の拠りどころになるものです。

それぞれ体系は異なりますが、すべて同じ方向を指し示しています。



ここに在る責任と幸福。

私たちの前には、いつもかけがえのないいのちがあります。

祝福されて生まれ、いつくしみの中で育ち、夢に胸をふくらませ、

しあわせになることを願って生きるいのち。

まず、私たちは、この地上でもっとも大切なもののために働いていることを、

胸の奥深くに刻みこもう。

そのために、私たち製薬会社にできることは無限にある。

自分たちを信じよう。自分たちの力を、自分たちが積み上げてきたものを信じよう。

私たちは、決して大きな会社ではない。

でも私たちには、どんな大きな会社にも負けないものがある。

どこにもない歴史があり、どこにもマネのできない技術があり、

そしてどこにも負けない優秀な人材がいる。

困難をおそれない勇気を持とう。常識をつきやぶる情熱を持とう。

革新とは、ただの成長ではない。飛躍という、翼を持った成長なのだ。

その翼は、現状に満足する者には永久に与えられないことを知ろう。

つくるものは、薬だけではない。私たちは、あらゆる人の笑顔をつくろう。

人がどれほど生きることを望んでいるか。家族がどれほどその人を愛しているか。

医療に従事する人がどれほどひとつのいのちを救いたいと願っているか。

人間に与えられた感受性をサビつかせることなく、世界一、いのちにやさしい会社になろう。

世界を救うのは強さだけではない。人間のやさしさが必要なのだ。

最高のチームになろう。どんな優秀な人間も、

ひとりにはあまりにも非力で、まちがうこともある。

力をあわせた人間というものが、どれほどすばらしい成果を残せるか。

それを世界に示したいと思う。

スピードをあげよう。いまこうしている間も、病とけんめいに闘う人がいる。

私たちは、その闘いがどんなにひたむきであるかを知っている。

急ごう。走ってはいけませんが、止まることは許されない。

そして、どんな時も誠実でありつづけよう。そのことは、心から誓おう。

私たちは薬をつくっている。人のいのちと一緒に歩いているのだ。

仕事は、人をしあわせにできる。いつも、私たちはそのことを忘れないでいよう。

私たちは、さまざまな場所で生まれ、さまざまな時間を経て、さながら奇蹟のように、

この仕事、この会社、この仲間に出会った。そのことを心からよろこぼう。

そして、いまここにいる自分に感謝し、その使命に心血をそそぎ、かけがえのない

いのちのために働くことを、誇りとしよう。

人間の情熱を、人間のために使うしあわせ。

私たちは、ひとりひとりが協和発酵キリンです。

たった一度の、いのちと歩く。

四半期連結決算概況

■四半期連結貸借対照表（要旨）

科 目	当第2四半期		科 目	当第2四半期	
	平成21年 9月30日現在	前 期 平成21年 3月31日現在		平成21年 9月30日現在	前 期 平成21年 3月31日現在
(単位:億円)					
資産の部			負債の部		
流動資産	2,919	2,794	流動負債	1,189	1,082
現金及び預金	336	329	支払手形及び買掛金	405	419
受取手形及び売掛金	1,078	1,099	短期借入金	128	127
たな卸資産	649	676	未払金	276	248
短期貸付金	631	472	その他	380	286
その他	223	216	固定負債	493	476
固定資産	4,242	4,195	繰延税金負債	186	171
有形固定資産	1,672	1,603	退職給付引当金	271	266
建物及び構築物	447	450	その他	36	38
機械装置及び運搬具	272	262	負債合計	1,682	1,559
土地	742	741	純資産の部		
その他	211	149	株主資本	5,470	5,472
無形固定資産	1,756	1,806	資本金	267	267
のれん	1,724	1,772	資本剰余金	5,123	5,124
その他	32	33	利益剰余金	148	104
投資その他の資産	813	785	自己株式	△ 69	△ 23
投資有価証券	683	623	評価・換算差額等	△ 37	△ 86
その他	130	161	新株予約権	1	1
資産合計	7,161	6,990	少数株主持分	44	43
			純資産合計	5,479	5,430
			負債純資産合計	7,161	6,990

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 3,254億円 3,196億円

■四半期連結損益計算書（要旨）

科 目	当第2四半期		科 目	当第2四半期	
	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで		平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
(単位:億円)					
売上高	1,943	2,477	売上高	1,943	2,477
売上原価	1,045	1,384	売上原価	1,045	1,384
売上総利益	898	1,093	売上総利益	898	1,093
販売費及び一般管理費	690	801	販売費及び一般管理費	690	801
営業利益	207	291	営業利益	207	291
営業外収益	33	30	営業外収益	33	30
営業外費用	19	18	営業外費用	19	18
経常利益	222	303	経常利益	222	303
特別損失	18	47	特別損失	18	47
税金等調整前四半期純利益	204	255	税金等調整前四半期純利益	204	255
法人税、住民税及び事業税	—	101	法人税、住民税及び事業税	—	101
法人税等調整額	—	67	法人税等調整額	—	67
少数株主利益	1	3	少数株主利益	1	3
四半期純利益	108	82	四半期純利益	108	82

(注) 1株当たり四半期純利益 18円91銭 14円43銭

■四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

科 目	当第2四半期		科 目	当第2四半期	
	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで		平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
(単位:億円)					
営業活動による キャッシュ・フロー	250	237	営業活動による キャッシュ・フロー	250	237
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 85	△ 116	投資活動による キャッシュ・フロー	△ 85	△ 116
財務活動による キャッシュ・フロー	42	△ 124	財務活動による キャッシュ・フロー	42	△ 124
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1	5	現金及び現金同等物に 係る換算差額	1	5
現金及び現金同等物の 増減額	208	1	現金及び現金同等物の 増減額	208	1
現金及び現金同等物の 期首残高	692	104	現金及び現金同等物の 期首残高	692	104
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	3	437	新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	3	437
連結除外に伴う現金及び 現金同等物の減少額	△ 2	—	連結除外に伴う現金及び 現金同等物の減少額	△ 2	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	905	543	現金及び現金同等物の 四半期末残高	905	543

主要な連結決算対象会社は、協和発酵バイオ株式会社、協和発酵ケミカル株式会社、協和メデックス株式会社、第一ファインケミカル株式会社であります。その他連結子会社は25社、持分法適用会社は9社であります。
(平成21年9月30日現在)

■当社

商号	協和発酵キリン株式会社
創立	昭和24年7月1日
本社所在地	〒100-8185 東京都千代田区大手町一丁目6番1号 (大手町ビル) 電話 03-3282-0007 http://www.kyowa-kirin.co.jp/
資本金	267億4,500万円
従業員数	4,292名
営業拠点	札幌支店、東北支店、東東京支店、西東京支店、千葉埼玉支店、北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、東海支店、大阪支店、京滋北陸支店、神戸支店、中国支店、四国支店、福岡支店、南九州支店 *このほか、営業所が57か所あります。
生産拠点	高崎工場、富士工場、堺工場ほか
研究拠点	フロンティア研究所、バイオ生産技術研究所、東京リサーチパーク、富士リサーチパーク、製剤研究所、合成技術研究所
海外駐在員事務所	北京、上海、広州 (中国)

■主要な子会社

国	内	外
	<p>協和発酵バイオ株式会社 本社：東京都千代田区 営業拠点：東京支店、大阪支店ほか2か所 生産拠点：ヘルスケア土浦工場、山口事業所 研究拠点：つくば開発センター、生産技術研究所</p> <p>協和発酵ケミカル株式会社 本社：東京都中央区 営業拠点：大阪支店 生産拠点：千葉工場、四日市工場 研究拠点：四日市研究所</p> <p>協和メデックス株式会社 本社：東京都中央区 営業拠点：東京支店、大阪支店ほか7か所 生産拠点：富士工場 研究拠点：研究所 (静岡県駿東郡長泉町)</p> <p>第一ファインケミカル株式会社 本社、生産拠点：富山県高岡市 営業拠点：東京事務所、大阪出張所</p>	<p>生産拠点 麒麟鯨鰐 (中国) 生物薬業有限公司 (中国) BIOKYOWA, INC. (アメリカ) 上海協和アミノ酸有限公司 (中国)</p> <p>研究開発拠点 Kyowa Hakko Kirin Pharma, Inc. (アメリカ) Kyowa Hakko Kirin UK Ltd. (イギリス) Kyowa Hakko Kirin California, Inc. (アメリカ) Hematech, Inc. (アメリカ)</p> <p>販売拠点 協和発酵麒麟 (香港) 有限公司 (中国) 協和発酵 (香港) 有限公司 (中国) 第一・キリン薬品株式会社 (韓国) 台湾協和発酵麒麟股份有限公司 (台湾) KYOWA HAKKO U.S.A., INC. (アメリカ) KYOWA HAKKO EUROPE GmbH (ドイツ) KYOWA ITALIANA FARMACEUTICI S.R.L. (イタリア)</p> <p>持株会社 Kyowa Hakko Kirin America, Inc. (アメリカ) KYOWA HAKKO BIO U.S. HOLDINGS, INC. (アメリカ)</p>

■取締役及び監査役

代表取締役社長 ※	松田 讓
代表取締役副社長執行役員	宗友 廣
取締役専務執行役員	湯地 友憲
取締役専務執行役員	山角 健
取締役常務執行役員	立花 和義
取締役常務執行役員	花井 陳雄
取締役常勤監査役	藤田 耕三
取締役常勤監査役	谷口 明夫
取締役常勤監査役	神田 信二
取締役常勤監査役	左藤 友郎
取締役常勤監査役	永井 浩明
取締役監査役	高橋 弘幸

■執行役員

専務執行役員	吉田 豊
常務執行役員	河合 弘行
常務執行役員	鈴木 学
執行役員	常包 芳樹
執行役員	唐澤 啓
執行役員	西野 文博
執行役員	高柳 昌生
執行役員	井上 英男
執行役員	諸富 滋
執行役員	三箇山 俊文
執行役員	山崎 暢久
執行役員	佐藤 洋一
執行役員	大島 悦男

(注) 上記※印の代表取締役は、執行役員を兼務しております。

発行可能株式総数	987,900,000株
発行済株式の総数	576,483,555株
株主数	48,173名

■大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
キリンホールディングス株式会社	288,819	50.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,076	4.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	19,339	3.40
第一生命保険相互会社	14,600	2.57
農林中央金庫	10,707	1.88
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	4,781	0.84
日本興亜損害保険株式会社	3,246	0.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,201	0.56
メロン バンク エヌイー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	3,174	0.56
株式会社損害保険ジャパン	3,135	0.55

(注) 1. 出資比率は自己株式(6,908,634株)を控除して計算しております。
2. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数4,781千株は、株式会社みずほ銀行が委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は株式会社みずほ銀行が留保しております。

■所有者別分布状況



■所有数別分布状況

